

専攻科調査書の記入・作成要領等

1 作 成

- (1) 高等学校長又は特別支援学校長(以下、「高等学校長等」という)は、志願者の調査書(本校が定める様式Ⅱ－2、A3版)を平成28年1月31日現在で作成する。
- (2) 調査書の各欄は、特に指示するもののほかは、高等学校及び特別支援学校高等部(以下、「高等学校等」)生徒指導要録に基づいて記入し、個人的主観にとらわれず、特別の作為を加えたりすることのないように作成する。
- (3) 上段の※印欄は、本校において必要な事項を記入するための欄とし、高等学校等では記入しない。

2 各欄の記入

- (1) 「氏名」、「現住所」、「学校名」に係る欄は、必要事項を記入するとともに、該当する項目を○で囲むか、該当項目のみを直接記入する。
なお、編入学及び転入学の場合は、その学年を()内に記入するとし、専門教育を主とする学科については、農業、水産、工業、商業、家庭、音楽等の別及び各科別を、例えば工業に関する学科の機械科の場合(工・機械)のように、()内に記入する。
また、学年による教育課程の区分を設けない全日制、定時制及び通信制の課程においては、「学年」を「年度」と読み替える。(以下同じ。)
- (2) 「各教科・科目等の学習の記録」欄は、高等学校等在学中の全学年について、次のように記入する。
- ① 「教科・科目」欄の教科名及び科目名は、指導要録に基づいて記入する。
「教科・科目」欄については、普通教育に関する教科・科目、専門教育に関する教科・科目の別が明確に区分されるよう記載する。

(記入例)

教科・科目		評 定			修 得 単 位 計
		第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	
教科	科 目				
	【普通教育に関する教科・科目】				
国 語	国語総合	4			4
	古典		3		4
	【専門教育に関する教科・科目】				
農 業	農業科学基礎	3			4
	環境科学基礎		5		4

なお、留学については、空欄に「留学」と記載する。
また、空欄不足の場合は、紙を貼り足してもよい。

- ② 「修得単位数の計」欄は、修得を認定した学年ごとの単位数の計を記入する。この場合、卒業見込みの者で、最終学年の修得単位が未決定である場合には、当該学年における履修単位を修得したものとして計算する。
なお、留学に係る修得単位数については、高等学校長等が修得を認定した単位数を記入する。
- ③ 「評定」欄は、5、4、3、2、1の5段階で表示する。
また、留学に係る評定については、外国の高等学校等の発行する成績や在籍、科目履修に関する証明書又はその写し(高等学校長等が原本と相違ないことを証明したもの)を添付し、記入を要しないとする。
- ④ 卒業見込みの者で、最終学年の成績が未決定である場合は、当該学年における直近の成績を総合し、高等学校等として判定した成績を、最終学年の成績として記入する。

- (3) 「各教科の評定平均値」及び「全体の評定平均値」欄については、次のように記入する。
なお、留学に係る修得単位については、算入する必要がない。

- ① 各教科の評定平均値の欄に記載する教科名について、普通教育に関する教科・専門教育に関する教科で同一の名称がある場合には、それぞれ「普」・「専」を教科名に併記する。
- ② 各教科の評定平均値は、高等学校等生徒指導要録に基づき、各教科ごとに各科目の評定の合計数を各教科の評定数で除した数値(小数点以下第2位を四捨五入)を記入する。
なお、例示以外の履修教科は、空欄を利用する。また、空欄不足の場合は、紙を貼り足してもよい。

(計算例)

下記の成績の者の計算例は、次のとおりである。

ア
$$\frac{\text{評定の合計数}}{\text{評 定 数}} = \frac{3 + 3 + 5}{3} = \frac{11}{3} = 3.66$$

イ 小数点以下第2位を四捨五入すると、この者の理科の評定平均値は、「3.7」となる。

教科・科目		評 定			修 得 単 位 計
		第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	
理 科	理科総合A	3			2
	物理Ⅰ		3		3
	化学Ⅰ			5	3

- ③ 全体の評定平均値は、指導要録に基づき、すべての教科・科目の評定の合計数をすべての評定数で除した数値(小数点以下第2位を四捨五入)を記入する。

(計算例)

下記の成績の者の計算例は、次のとおりである。

ア
$$\frac{\text{すべての教科・科目の評定の合計数}}{\text{すべての評定数}} = \frac{(\text{国語}4 + 3) + (\text{地歴}5 + 4 + 4) + \dots}{(\text{国語}2) + (\text{地歴}3) + \dots} = \frac{116}{30} = 3.86$$

イ 小数点以下第2位を四捨五入すると、この者の全体の評定平均値は、「3.9」となる。

教科・科目		評 定			修 得 単 位 計
		第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	
教科	科 目				
国 語	国語総合	4			4
	古典		3		4
地 歴	世界史B	5			4
	日本史A		4		2
	地理A			4	2
保 体	体育	4	3	4	8
	保健		5		2
家 庭	家庭総合	5			4

(注) 保健体育の体育のように、複数学年にわたって履修する科目については、各学年ごとの評定数をそれぞれ1科目分として取り扱い計算する。

(4) 「学習成績概評」及び「成績段階別人数」欄は、次のように記入する。

- ① 「学習成績概評」欄は、高等学校等における同一学年生徒全員（ただし、教育課程の異なる類型のある場合は類型別、専門教育を主とする学科の場合は科別）の3か年間（ただし、定時制及び通信制の課程で修業年限が3年を超えるものにあつては当該期間）における全体の評定平均値を次の区分に従つて、A、B、C、D、Eの5段階に分け、その生徒の属する成績段階を記入する。

全体の評定平均値	学習成績概評
5 . 0 ～ 4 . 3	A
4 . 2 ～ 3 . 5	B
3 . 4 ～ 2 . 7	C
2 . 6 ～ 1 . 9	D
1 . 8以下	E

- ② 「成績段階別人数」欄は、各段階に属する人数とその合計を、「A〇〇人、B〇〇人、C〇〇人、D〇〇人、E〇〇人、合計〇〇人」のように記入すること。
- また、①により、類型別又は科別に記入した場合は、「合計」欄に同一学年生徒の合計数を（ ）内に記入する。
- (5) 「出欠の記録」欄は、指導要録該当欄の記載事項を転記するものとするが、欠席日数が各学年ごとに合計5日以上ある者について欠席の理由を備考欄に必ず記入する。記入すべき事項がない場合は、斜線とする。卒業見込みの者の最終学年の欄は、直近の学期末（ないしは、最終学年の成績を判定した時点）現在における出欠の状況を記入し、その旨を備考欄に明示する。
- (6) 「特別活動の記録」欄には、特別活動における生徒の活動状況について主な事実及び所見を記入する。
- ① 事実の記入に当たっては、例えば、下記の事項が考えられる。
所属する係名や委員会名、学校行事における役割の分担など、活動の状況についての事実に関すること。
- ② 所見の記入に当たっては、例えば下記の事項が考えられる。
ア その生徒個人として比較的優れている点など、特別活動全体を通して見られる生徒の特徴に関すること。
イ 当該学年において、その当初と学年末とを比較し、活動の状況の進歩が著しい場合、その状況に関すること。
- (7) 「指導上参考となる諸事項」欄には、指導要録の同欄の記載事項のうち、①各教科・科目及び総合的な学習の時間の学習における特徴等、②行動の特徴、特技等、③部活動、ボランティア活動等、④取得資格、検定等、⑤その他特に必要と認められる事項等について記入することとし、無い場合はその旨明示する。その際、複数の学年を通じた記入が適当である場合は、各学年ごとの記入を要しない。
なお、留学に該当する場合は、留学期間及び留学先の国名、学校名を記入する。また、休学については、高等学校長等が許可した期間を記入する。
- (8) 「総合的な学習の時間の内容・評価」欄には、「総合的な学習の時間」における当該生徒の活動内容及びその評価を文章で各学年ごとに具体的に記入する。その際には、各学校が設定した評価の観点及びそれに基づいた評価が記述されることが望ましい。
なお、「総合的な学習の時間」を履修していない生徒については、当該欄に斜線を引く。
- (9) 「状況等」欄の「身体障害者手帳」は「有」・「無」のどちらかに○印を記入し、「有」の場合には、「障害の程度」に「○種○級」を記入する。「聴力」は、4分法による平均聴力レベルを記入する。「疾病及び障害の状況等」は、就学及び受検上配慮すべき事項がある場合、その事項について具体的に記入する。（必要に応じて副申書を添付する。）
なお、記入すべき事項がない場合は、斜線を引く。
- (10) 「備考」欄には、本校の専攻科等に対する能力・適性等について、特に高等学校長等が推薦できる生徒についてはその旨記入する。
また、学校教育法施行規則第85条の規定に基づき、教育課程編成上の特例の適用を受けている研究開発学校及び同規則第103条第1項に基づく単位制による課程を置く高等学校にあつては、その旨明示する。
- (11) 記載責任者職氏名は、必ず記載し、押印する。
なお、記載内容を訂正した場合は、訂正箇所には高等学校長等の印を押印するとともに、欄外に加除字数を表示する。また、紙を貼り足した場合も、高等学校長等の印で割印をとる。

- (12) 必履修教科・科目の未履修があつた場合の調査書については、次のとおり取り扱うものとする。
なお、この取扱いは、①「平成19年度大学入学者選抜における調査書の取扱い等について（通知）」（平成18年11月2日付け18文科高第427号文部科学省高等教育局長・文部科学省生涯学習政策局長通知）より前に高等学校を卒業した者及び中途退学をした者、及び②「平成20年度大学入学者選抜における調査書の取扱い等について（通知）」（平成19年12月21日付け19高大振第66号文部科学省高等教育局大学振興課長・文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課長通知）に該当する者に係るものとする。

- ① 未履修教科・科目の「評定」欄については空白とする。（なお、「修得単位数の計」については、記載する。）
- ② 「各教科の評定平均値」欄及び「全体の評定平均値」欄については、未履修教科・科目を除いて算定した数値を記入する。
- ③ 「備考」欄については、下記内容を記載する。
ア 未履修教科・科目名。
イ 未履修は、生徒の責に帰すべき事由によるものではない。
ウ 評定平均値は未履修科目を除いて算定している。

3 提出

- (1) 高等学校長等は、志願者の調査書を入学願書等と併せてろう学校長に提出する。
- (2) 調査書は、本校のホームページ等から取得した様式（様式Ⅱ－2）に、直接入力したもの、またそれを複写（コピー）したものに押印して提出する。